

A 極良食味米の新品種については、秋田県が現地栽培試験による栽培特性や品質特性の調査を実施しています。平成32年のお披露目、平成34年からの一般作付に向けて準備を進めております。

Q ねぎの作付・生産拡大は良いことですが、営農指導員の人数が不足していると思います。どのように対応していくのでしょうか。

A メールマガジンを活用しながら市況情報、病害虫情報を発信してまいります。また活動計画を策定し、特に新規作付から3年以内の組合員については講習会を行うこととしております。緊急の際にはお気軽にご連絡下さい。

Q 基盤整備が予定されておりますが、農地の集約も進むと思っておりますので、今までの以上に相談にのってほしいです。

A 現在も行っておりますが、営農計画策定支援システム（新ZIBFM）を活用し相談活動を行っておりますので気軽にご相談下さい。

Q 数年前まで青色申告の講習会を開催しておりましたが、また開催していただきたいです。

A 農業支援事業でJAGグループ秋田が構築するWeb版農業簿記に合わせ、J

Aの部会体制を見直し青色申告、収入保険制度への対応を含め講習会を開催してまいります。

Q JAとして農家（後継者を含め）を増やす取組みを行ってほしいです。

A 農業次世代人材投資事業（旧青年就農給付金事業）を活用しながら、行政と一体となり取り組んでまいります。



▲駒形・矢崎・大林地区

Q 農薬の容器の処理が大変なため、JAに集め処理できないのですか。期限が過ぎた中身についても個人では処理できないのでどうすれば良いのですか。

A 農薬の容器処理は廃プラスチック回収対応できるかを確認いたします。期限切れ農薬については、産業廃棄物処理法・毒

劇物取締法で生産者本人が責任を持って処理することになっております。JAでは不法投棄未然防止のために期限切れ等で使用できない農薬に関しては、回収可能な農薬に限り数年毎に有償で回収しております。

Q 農機のコスト削減のため、中古農機の情報をお知らせください。

A また、その情報は、ホームページを利用できません。

A 全県的に中古農機が（特にトラクター）不足している状態です。情報につきましては今後も各展示会等で発信してまいります。また、ホームページ掲載に関しては難しい状況ですが、JAの広報誌を活用し掲載いたします。



▲寒川・石丁・福田・成合・黒岡・茨嶋地区